

# ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

1993年11月6日 発行

8 表彰・講演  
特集号

発行者 平形 義人

発行所 ぐんま日独協会

〒371 前橋市三俣町3-11-12

☎0272-31-7212 FAX 0272-32-4082



・ぐんま日独協会5周年大会

・平成5年6月27日

・群馬会館正面玄関にて

## □ハイマート8号の主な内容

- 6月 5周年大会…………… 2
- ドイツ大使表彰…………… 3~5
- 記念公開講演
- J・クライナー博士…………… 6
- 常木 實教授…………… 7
- 7月 ドイツ高校・大学生による国際交流…………… 8
- 9月 高崎少林山にて
- 「ベルツ賞授賞」草津町 小林 祐邦会員…………… 8
- クリスマスの集いのご案内…………… 1

## お知らせ

### ぐんま日独クリスマスの集い

- 日時 '93. 12. 5(日) PM 2-4:30
- 場所 群馬会館(地下 第一会議室)
- 会費 2千円(当日受付)
- プレゼント(千円相当)
- 各自1個御持参のこと
- 申込み 11月末締切り 電話可
- 5分間スピーチ希望者は受付まで
- 駐車場は県庁・市役所をご利用下さい

題字：平形義人会長 表紙写真：石井直人

## ◆ぐんま日独協会5周年大会◆

ごあいさつ

会長 平形 義人

祝詞

群馬県知事 小寺 弘之

光陰矢の如く5年が過ぎました。世界では冷戦が去って、ベルリンの壁は崩れ、東西ドイツは統一され、新秩序の構築が待たれています。

ぐんま日独協会は三つ俣に事務所を移し、役員会議も活発に行なわれ、年2回の会報の発行、総会、クリスマス会、講演会、音楽会、全国日独協会との交流、県内日独交流の後援等協会の役目がふえました。

5周年記念大会の盛況振りは表紙写真の如くです。特にハース駐日ドイツ大使より沢山の表彰を頂いたことは本人は勿論協会の名誉です。一層の日独友交親善に尽さんと誓ったところです。J・クライナー博士と常木實教授の『記念講演』は内容豊富、時間が少ないのが残念でした。

ドイツの皆さんが群馬に着目してきました。

HERZLICH WILLKOMMEN IN GUNMA!!!

本日は、群馬日独協会設立五周年の記念大会にお招きいただき誠にありがとうございます。まずもって厚く御礼申し上げますとともに、一言お祝辞を申し上げます。

さて、改めて申し上げるまでもなく、本県とドイツ連邦共和国との関係で、まず思い出されるのは、1976年(明治9年)に日本政府の招聘により来日したドイツ人医師ベルツ博士であります。博士は、前後29年の長きにわたって我が国に在留され、当時のドイツとは比較することもできないほど遅れていた我が国の近代化に、医学界はもとより、あらゆる面で大きな貢献をされたのであります。特に、本県では、伊香保と草津の温泉研究を中心として、幾度となく来県、長期にわたって滞在され、当時の群馬の人達に強烈な影響を物心両面で与えたのみでなく、その功績と心は120年の歳月を経た現在の県民にも広く受け継がれております。

群馬日独協会は、こうした歴史的な事実を踏まえながら、平形会長さんを初めとして、ドイツとゆかりの深い人達が、こうした県民とドイツの人達との相互理解と交流を、更に未長く継承、発展させるために1988年(昭和63年)に、設立し、継続して活発な活動を続けている団体であります。

そして5年、ここに至るまでの、関係皆様のご労苦に対し、この席をお借りして、改めて深甚なる敬意と感謝を申し上げますと共に、おりから激動を続ける世界の中で、不幸な紛争や出来事が日々伝えられて参りますが、こうしたことも、ベルツ博士の時代にも想像も出来なかった程に、世界が小さく、近くなったのに、そして相互依存の関係が深くなっているのに、人々の物の見方や考え方が、それについて行って行けないのでいるからだと考えます。

ドイツの生んだ世界的建築家ブルーノ・タウト氏が日本を訪ずれたのは昭和8年5月でしたが、縁あって高崎市の少林山に寄寓しトルコへ行く途の2年半ここで生活したことは、私達群馬県民にとって忘れられない思い出であります。

近年タウトの偉大さを見直す動きがドイツに勃興しておりますが、貴会でもタウトに関する著作を出版されたことは、誠に時機にかなったものと思います。

こうした中で、貴群馬日独協会が目的としている市民レベルの国際理解や国際交流の活動は極めて重要かつ意義のある活動であると考えます。そして、こうした草の根の活動を幅広く進めることが、ベルツ博士を初めとして、これまで世界の多くの国や人々にお世話になって、今日の日本を築いた、われわれ日本、日本人が世界の人々に対して果たさなければならないご恩返しの一つでもあるとも考えますので、これからも層、一層のご発展とご活躍をご期待申し上げます。

そして、本日はヨーゼフ・クライナー、ボン大学教授、ドイツ日本文化研究所長先生をお招きして、ご講演をいただくとともに、常木實 東京大学名誉教授のお話もお伺いできると伺いました。

誠に、時宜を得た好企画で、ここに至るまでの関係皆様のご努力とご協力に対して深甚なる敬意を表するとともに、そのご成功と、群馬日独協会の限りないご発展、さらにはご列席の皆様のご発展とご多幸をお祈り申し上げ、言葉整いませんが祝辞と致します。

おめでとうございます。

平成5年6月27日

### プログラム 27. Juni '93 於 群馬会館

pm 1:30 〔記念式典〕《大理石の間》

開会の辞  
国歌  
会長挨拶  
群馬県知事祝詞  
(財)日独協会会長祝詞  
来賓紹介  
記念品贈呈(シルクフラワー 藤川 喜子作)  
ドイツ連邦共和国 W・ハース駐日大使表彰  
※受賞者は3P、4Pのとおり※  
〔記念撮影〕《正面玄関前》

〔総会〕《広間》	〔一般展示〕
議長選出	記念品 シルクフラワー
経過報告	表彰状・副賞
会計報告	ドイツ学童絵画
①平成4年決算報告②平成5年予算案(4P参照)	書籍・ドイツ語テープ

2:30 〔記念公開講演会〕

「ドイツにおける日本のイメージ」  
Dr. J. クライナー  
「初めに科学ありき―独・日の出会い―」  
常木 實教授

3:40 閉会の辞 来賓御見送り

4:00 〔記念祝賀パーティー〕《地下食堂》

# ドイツ連邦共和国WILHELM HAAS 大使表彰

## 表彰者一覧表

平 形 義 人 (会 長)  
 中 沢 晁 三 (副 会 長)  
 小 林 喬 ( " )  
 木 暮 金 太 夫 ( " )  
 中 村 鉦 一 ( " )  
 佐 藤 進 一 (事 務 局 長)  
 対 馬 良 一 (理 事)  
 須 郷 登 世 治 ( " )

石 井 直 人 (理 事)  
 伊 藤 廉 平 ( " )  
 土 屋 喜 代 子 ( " )  
 田 口 久 美 子 ( " )  
 関 口 陽 二 ( " )  
 小 野 里 光 明 ( " )  
 塚 越 平 人 ( " )  
 古 屋 賀 津 子 (監 事)  
 黒 田 と め 子 ( " )



### 表 彰 状

平形 義人殿

あなたは1988年4月のぐんま日独協会設立以来今日まで会長の要職に在り、争先協会の充実・発展に盡力され、会務に精励され、日独親善交流に貢献されました。その功を称え表彰します。

ドイツ連邦共和国大使  
 Wilhelm Haas



### 表 彰 状

中沢 晃三殿

あなたは Erwin von Sillit 博士の研究に根ざす多年の日独交流の体験に基づき1988年ぐんま日独協会設立以来副会長として協会の充実・発展に盡力せられ、特に草津ベルツ協会々長、草津・ピーティヒハイム・ピツシゲン市との姉妹都市締結、日独ロマンティック姉妹街道結成等、日独親善交流に盡力されました。その功を称え表彰します。

ドイツ連邦共和国大使  
 Wilhelm Haas



### 表 彰 状

小林 高殿

あなたは1988年ぐんま日独協会設立以来副会長に推され、DORIS夫人と共に活躍され、特に1992年『異文化の接点』(Berührungspunkte der Kulturen)を著わされ、日独文化交流のパイロットとなりました。その功を称え表彰します。

ドイツ連邦共和国大使  
 Wilhelm Haas



### 表 彰 状

木暮 金太夫殿

あなたはぐんま日独協会副会長として協会の充実・発展に寄与され、特にDr. Erwin von Sillitの日本鉱泉論に期り伊香保温泉に「ベルツの湯・日本温泉資料館」を造り、前編において「ぐんま国際温泉フェスティバル」の開催に盡力され、日本温泉科学会の会長をつとめる等、日独親善交流に貢献されました。その功を称え表彰します。

ドイツ連邦共和国大使  
 Wilhelm Haas



### 表 彰 状

中村 鉦一殿

あなたは1988年ぐんま日独協会発足以来、協会の充実・発展に盡力され、副会長となり、又1991年以来協会事務局を提供下され、特に会報の発行に寄与されました。その功を称え表彰します。

ドイツ連邦共和国大使  
 Wilhelm Haas



### 表 彰 状

佐藤 進一殿

あなたは1988年4月のぐんま日独協会設立に盡神され、以来今日まで事務局長の要職に在り、特に群馬県版会報に日独交流記事を連載する等、日独親善交流に献身されました。その功を称え表彰します。

ドイツ連邦共和国大使  
 Wilhelm Haas



### 表 彰 状

対馬 良一殿

あなたは1988年より3年間炭坑使節団員としてルール地方に駐在以来、親独の情深く、1988年ぐんま日独協会発足するや役員となり、争先して会員の融和・団結に盡力され、日独親善交流に貢献されました。その功を称え表彰します。

ドイツ連邦共和国大使  
 Wilhelm Haas



### 表 彰 状

須郷 登世治殿

あなたは1991年『ドイツ憲法の解説』を著わし、ケンシャー・ドイツ外務大臣に贈呈し、又1992年『日本語解説付きドイツ写真集』を贈り、様々な努力に依り宛訳カラー製本されドイツ大使に献上する等、日独親善に努められました。その功を称え表彰します。

ドイツ連邦共和国大使  
 Wilhelm Haas

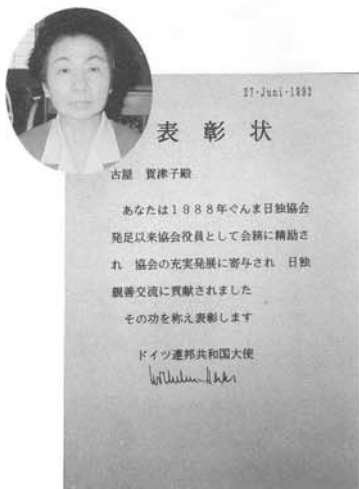


### 表 彰 状

石井 直人殿

あなたは1988年ぐんま日独協会発足以来協会役員として会務に精励され、協会の充実発展に寄与され、日独親善交流に貢献されました。その功を称え表彰します。

ドイツ連邦共和国大使  
 Wilhelm Haas



平成5年度ぐんま日独協会予算書

取入の部		
項目	金額	
会費	1,210,000円	
雑収入	50,000	
繰越金	271,495	
計	1,531,495	
支出の部		
項目	金額	
会議費	480,000円	
通信費	120,000	
事務費	150,000	
印刷費	420,000	
図書研究費	120,000	
講演会費	50,000	
広報費		
ホームステイ	150,000	
その他企画協賛		
子備費	41,495	
計	1,531,495	

## 平 形 義 人

ぐんま日独5周年記念大会にドイツ連邦共和国W・ハース大使閣下より表彰状を賜り、感謝感激です。家宝として子孫に伝え、日独友好親善に尽くしたいと存じます。

信条 「忠恕」

好きな言葉 freundlich

小 林 喬

人間をとるにしたがって、感受性も薄れ、よほどのことでないと感動しなくなる。と言うか、長い人生の中で多種多様な物事に驚喜したり、感動したりして、心の動きかたにぶくって行くのかも知れない。

しかし、考えてみれば、感動こそ己を奮い立たせ、勇気を湧かせるエネルギーであろうと思える。若い者が躊躇せず真っすぐに物事に当たる勇氣は、純粋な感動が生み出すエネルギーによるものではないだろうか。物事に關心が薄れ、心を動かされることも徐々に少なくなって行く現象は、精神的な「老い」の現像とも捉えられよう。

勿論、老いる素晴らしいさもあるが、己を常に奮い立たせるエネルギーは、いくつになっても追い求めたいものである。今回のまったく予期せぬドイツ大使からの表彰も、私の魂を揺さぶり、久しく途絶えていた感動を呼び覚ましてくれた。昨年の県文学賞受賞に次ぎ、今回の家内ともどもの大使表彰の感動は、しばし己を奮い立たせるエネルギーになろうと思える。

木 暮 金 木 夫

この度はドイツ連邦共和国大使W・ハース閣下より表彰状をいただくことになり大へん光栄に存じております。

これも平形会長様をはじめぐんま日独協会の会員皆様様の御支援、御協力の賜と感謝申し上げます。

私は医師として、また温泉関係者として日独親善に微力をつくしてまいりましたが特に日本の温泉のよき指導者でありましたベルツ博士を敬慕しております。今後ベルツ博士を益々顕彰すると共に博士の心を心として日独親善友好のため尽力する所存でございますので何卒よろしく御指導下さいませよう御願ひ申し上げます。

中 村 鉦 一

只管感激

佐 藤 進 一

Sehr geehrter Herr Botschafter, Es ist meine große Ehre u. Freude, diese Auszeichnung u. das schöne Geschenk, "Von der Spaltung zur Einheit" zu bekommen.

Seit der Begründung der Jap-Deutschen Gesellschaft Gunma habe ich für die Freundschaft zwischen beiden Ländern bestrebt. Herzlichen Dank für Ihr Wohlwollen! Ich wünsche Ihnen Glück u. Entwicklung Ihrer Heimat.

mit besten Grüßen.

Dr. med. S. Satoh

対 馬 良 一

昭和33年に日本政府と西ドイツ政府間協定で実施された、炭鉱技術習得のための派遣事業で西ドイツに派遣されたのがドイツとのかかわりあいである。すでに35年になります。この間、多数のドイツ人とお会いし、片言のドイツ語と、手振り、身振りでも、こちらの

意思が通じた時の嬉しかったことや、日本の文化、歴史、風景などを、説明するのも楽しいものでした。ぐんま日独協会の設立を知り入会して早や5年です。

この度、ドイツ連邦共和国大使、W・ハース閣下より、5周年記念大会の席上にて不肖、私も表彰状を頂く榮譽に浴し、この上もない名譽なことで恐縮いたしております。

渡航も、外貨も、自由でなかった当時、働きながら学びそして生活したヨーロッパの大國ドイツでの3年間。“ドイツは私の第2の故郷である”“Deutschland ist mein zweiter Heimatland

微力ながらこれからも日独親善のため尽くしたいと思っておりますので、ぐんま日独協会会員の皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

須 郷 登 世 治

この度は、群馬日独協会の5周年記念大会に当たり、ドイツ連邦共和国大使Botschafter W・ハース閣下より、私ごとき者に、名譽ある表彰状を賜るとのお知らせを戴き、感謝感激、欣快の至りに存じます。日本とドイツは、第2次大戦において完璧に破れて無条件降伏をし、国土の大半は焦土と化したにも拘らず、たくましい国民性により、目覚ましい復興を成しとげ、今や、世界の經濟大國となりました。しかし、戦争の恐ろしさは、どこよりも感じております。二度と戦争の起きないよう、平和主義のリーガーとして、永久に世界平和の實現に向かって進みたいものです。平和と自由と健康、“Frieden, Freiheit und Gesundheit” これこそ、私たちの願ひしてやまないところであります。

石 井 直 人

この度は思い掛けず身に余る表彰状を賜わり誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。これを機会にさらに努力、協力を重ねる所存でございます。

今後共よろしく御指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

伊 藤 廉 平

この度表彰状を頂戴する事になり、身に余る光栄と存じ、心より感謝申し上げます。私は平形会長や協会幹部各位のご指導により、ぐんま日独協会の幹事の一人として今日まで各種行事に参加させて頂きました。この間私個人としては建設的行為もなく、唯たのしくすごさせて頂きました。皆様の深いご配慮に重ねて敬意を表する次第です。日常生活の信条としては「他人様への思いやりを忘れる事なく、今日に全力をつくす」事を心掛けております。皆様のご健康を祈念申し上げます。

土 屋 喜 代 子

懐かしさ 由に重ねし早や五歳  
又潜る年も又その次も

田 中 久 美 子

“創 造”

関 口 陽 二

本日はからずもドイツ連邦大使からの表彰状を佐藤先生みずからお届け下さい恐縮の上もありません。

私の場合は日独協会丸田会長の後輩にあたるというだけの縁で佐藤先生から入会のお誘いを受けた訳で企業人として、お役に立てばと皆様の驥尾に附しているだけの存在であります。

その私がドイツ連邦大使の表彰を受けようとは、身に余る光栄ではありますが省みて内心忸怩たるものがあります。

私の方では直接国際交流に貢献できることは殆どありませんが今後もぐんま日独協会に参加してゆくことで微力ながらその責を果たしたいと思っております。

ぐんま日独協会の益々の発展を祈りつつ取りあえず受彰の御礼まで。

小 野 里 光 明

国際交流が謂われてから久しいが、仲々実が拳がっていないのが現況である。日本の国際貢献にしても金庫は提出していても、本当に世界中から慕われているだろうか。われわれ日本人自体が体質を改善し、一步進んだ「豊かな気持ち」をもってことに当たらなければならない、經濟大國から生活大國へと変貌し、物心両面から頼りになる国と仕度いものである。

塚 越 平 人

この度は、ぐんま日独協会創立五周年おめでとうございます。エネルギー供給に携わっている小生は、天然ガス利用の先進国である貴國に永年お世話になって居ります。特に現在最も効率のよいとされているコ・ジェネレーションについては現地ハイデンハイム(コ・ジェネレーション発祥の地)へ数回訪問し、勉強させて頂きました。又、社員も十数年の間、数名づつ派遣見学をさせて頂きましたが、大変有意義であったと皆、感謝して居ります。

私は、貴國を訪れてその都度感じさせられるのが環境に対する配慮であります。国をはじめ様々な分野でその考えが浸透し、我國に於ける環境問題に素晴らしい手本として学んでいかねばならないと感じております。今、日独両國が共に手を携えて地球的規模の貢献を成すべき時であると思えます。今後の日独の発展を心から祈念すると同時にぐんま日独協会がその役割を更に發揮され、ご活躍されますことを期待致しております。

古 屋 實 津 子

思いかけない破格のご厚遇にて唯々驚いて居る次第です。会が好きで、いつもご通知頂くことは可能な限り出席させて頂いております。何の貢献も出来ませんが恐縮に存じます。私の常に考え、実行しておりますモットーは、精神的に豊かに生きて行きたいとおもうことで、そのための努力は、辛くも苦しくも無いのです。今後共、何卒ご教導下さいませ。

黒 田 と め 子

信条としては(おこましくも)『日々誠実に』生きたいということなのですけれども、結果としては、結局のらりくらりと過ごして了っております。ただ世の中の趨勢がどうも、家庭の教育力低下の傾向ではないかと、少々案じております。昔の親たちの方が、地に足がついていたように思えるのですけれども…。現代は少々時自分のことを大切にしすぎるからでしょうかしら？

ぐんま日独3周年大会

W・ハース大使表彰者一覧

(団体) 草 津 町(山本 巖)  
沼田ドイツ語会(角田 勳)  
(個人) 朝 雲 久 児 臣  
白 倉 卓 夫



## 「ドイツにおける日本のイメージ」

ドイツ日本文化研究所長兼ボン大学教授

ヨゼフ・クライナー博士

ドイツにおける日本のイメージを語るにはまず日独交流の歴史を述べる必要があります。両国は可成り古くから交流あり、最初のもは1590年代慶長年間（秀吉の時代）既にスペインやポルトガルの神父の年次報告に見られます。これらはスイスルツエルの図書館に保存されています。一般に日独の交流はケンペル<sup>①</sup>やシーボルト<sup>②</sup>から始まったと言われていますがスペインやポルトガルの神父の報告は、ドイツにも伝わってありました。その証拠とも言うべきものにあの有名な音楽家W. A. モーツァルト（1756～91）は彼の作曲したオペラ魔笛（Zauber Floete）の主人公タミノの服装に日本の狩人の服を着る様指示した記録があります。モーツァルトが日本に関する情報をえた根拠は先ずイエズス会による演劇でした。ハプスブルグ家は民衆啓蒙のために演劇を奨励しましたが、細川ガラシャ夫人（1563～1600）をモデルにしたものもあります。又モーツァルト最後のオペラ「テイトス王の慈悲」も大友宗麟（1530～1587）を参考にしたと言われるが、これら二人は熱心なキリスト教徒であったので、ヨーロッパに名前を知られていたのです。又ハイドンの弟ミヒヤエル・ハイドン（1737～1806）のオペラにはシヤム（現在のタイ）で活躍した山田長政（1630年没）の物語を主題にしたものもあります。

服装について言えばポルトガルの枢機卿は天正少年使節団（1582～1590年に亘って渡欧した4人のキリスト教徒で九州大名の子弟である）の和服姿を真似て作らせ、仙台藩の支倉常長（1571～1622）はローマに渡った時、能の衣裳で拝謁したことが記録に残っています。徳川幕府になって長崎の出島の長官が江戸に赴き将軍に拝した時、多くの着物を頂戴したのです。彼はそれを長崎奉行、インドネシア総督、アムステルダムの東印度会社や、オランダ王に贈ったが、王はそれをガウンに直し今でも国立博物館に展示されています。

当時ヨーロッパの日本を見る眼は、アジアの東の果てに日本と言う島国があり男は刀を掲げて勇気があり、宗教心が強く容易に改宗せずきれいな着物を着ていると。又日本の漆や有田焼をドイツに紹介したのはドレスデン生まれの東印度会社の男でした。シーボルトが日本から持ち帰った莫大な浮世絵や版画はヨーロッパの芸術に大きな影響を与えました。レンブラントも「光と影」について学んだと言われます。

建築について言えば農家や家具等は当時のドイツにも紹介されています。これはタウト（1880～1938）が日本に来た100年以上昔のことです。タウトは皆さんご承知の通り桂離宮を世界に紹介した人です。

明治時代に入るとベルツ教授（1849～1913）を始め多くの学者がドイツから日本に来て学術の振興に尽しました。彼等は唯教えるだけでなく日本を愛し日本文化を高く評価しました。又女性の地位向上を唱え女子教育をすすめたのもドイツ人でした。

それから大正昭和の時代となると日独同盟と云う時期もありましたが、これは本当の理解と友情に基づくものでなく、お互いの利害関係によるものでしたから、あのような敗戦と言う結末を生み出しました。

戦後になって外務省が数年に亘りEC各国に対し世論調査を行ったものがありますが、ドイツに関するものを茲



講演する 常木 實教授 クライナー教授 平形会長

に引用させていただきます。

先ずどうして日本を知るようになったかと云う設問に対し、90%は経済、次いで政治の順となり文化は30%と低い数字を示します。併し日本を知っている人は日本文化や日常生活に対し大きな関心を持っており、文学について云えば明治以降日本文学のドイツ語訳は700点に上っております。その4割は最近の10年間に出版されており井上靖、三島由起夫、遠藤周作が人気作家となっております。

日本に対するイメージとしては先ず経済大国、そして又古い伝統文化をもっており且それは可成り高度なものであると認められています。日本人に対しては先ず勤勉であると答える人は60%です。元は90%でしたが最近勤勉が美德でないと思われるようになった為でしょう。礼儀正しいと答える人は67%ですが、フランス人やイタリー人に対してはずっと低いのです。

日本は信頼できるかと言う問いに対しては90%と答えています。日本の投資を歓迎するけれど（特に共産圏に対し）同時に市場開放を望む声もあります。学術研究の面においても両国はより一層協力すべきで、その為にシーボルト財団等がこれを援護すべきでしょう。それにより両国の発展は益々確実になるものと信じております。ぐんま日独協会は両国の友情の下に生まれた交流団体ですが、今後益々のご発展を祈って止みません。これで私の講演を閉じさせていただきます。（終）

①(1)ケンペル(1651～1716)ドイツ人医師で1686年から1692年迄オランダ東印度会社付として来日滞在。その間2回江戸幕府に参内し祖國に帰ってから「日本誌」を出版し日本紹介者として有名である。

②(2)シーボルト(1796～1866)江戸後期にオランダ東印度会社長崎出島商館付医師として来日したドイツ人医師。1826年春江戸幕府に参内、江戸の蘭学者（高野長英・伊東玄朴その他）と交際、指導した。28年いわずのシーボルト事件によって国外追放を受け帰国したが、オランダのライデン大学に戻って大著「日本」を刊行(1833～1854)日本をヨーロッパに広く紹介した。後が長崎滞在中日本人女性との間にもうけた娘橋本いねは女医として明治年間活躍した。

（文責：佐藤 進一）

### ベルツ・コレクション

「帰ってきた幕末・明治の絵画」展がJ・クライナー博士のドイツ・日本研究所と朝日新聞社主催、上野松阪屋で去る8～9月に開催され、盛況であった。

## 「初めに科学ありき —独・日の出会い—

常木 實 教授

16世紀末まで世界貿易において覇を唱えていたスペインとポルトガルに代わって、17世紀にはイギリスとオランダが登場する。それはスペインとポルトガルが旧敵国として、貿易とキリスト教の布教に力を注いだのに対し、イギリスとオランダは貿易と布教を区別したことによる。わが日本との貿易でもキリスト教の布教と結びついた国々は脱落し、やがてイギリスも後退し、実利のみを求めらるオランダが対日貿易を独占するようになる。

ドイツと日本との正式の国交は、今からおよそ130年前の1861年(1月28日)、プロイセン(Preußen)国王と日本の明治大帝(Kaiser Meiji der Große)の名で、日独修交条約が結ばれた時に始まったが、ドイツと日本との出会いはそれよりもはるかに前で、1690年(元禄3年)ドイツ人医学者、博物学者、歴史学者エンゲルベルト・ケンプファー(Engelbert Kaempfer)が、オランダ東インド会社の医師として日本に渡ってきたのが始まりである。

Kaempferの最大の功績は滞日わずか2年余りの体験を基礎にして書き上げた2冊の本、『異国奇観』(Amoenitas exoticae, 1712年)と『日本誌』(Geschichte und Beschreibung von Japan, 1777-79年、2巻)であるが、『日本誌』はヨーロッパ人の手に成る最初の総合的学術的な著作と言われ、著者の幅広い教養と非凡の才、鋭い洞察力を示すもので、この書物がヨーロッパの学界に与えた影響は計り知れないほど大きなものがあった。

その後1823年シーボルト(Philipp Franz von Siebold, 1796-1866年)が、Kaempferと同じように、オランダ東インド会社のおかえ医師として長崎に上陸した。SieboldはKaempfer同様、いやそれ以上に、日本文化の高さと日本人の優秀な国民性を認めていたので、喜んで若い日本人の教育を引き受け、新しい学問を教えてくれた。Sieboldの書き残したもので、とりわけ“Flora Japonica”『日本植物誌』(1870年)とか、“Fauna Japonica”『日本動物誌』(1850年)、さらに“Nippon”『日本』(1832-51年)は、当時のヨーロッパの人々に、日本民族と日本文化の特色を紹介したもので、未知の世界に浸透して学問的に探求しようと、正にFaust的な努力を傾けて書き上げた大作であり、当時のヨーロッパの或る種の人々が抱いていた帝国主義的植民地化思想とは、全く相容れない、崇高な人道主義的研究成果である。

私はここでドイツとは日本との最初の出会いが、学問を通じての結びつきであった点に、注目したいと思う。聖書の言葉に因んで言えば「はじめに科学ありき」(はじめに学問があった)(Im Anfang war die Wissenschaft)である。他の欧米諸国は、古くはスペイン、ポルトガル、またアメリカ、イギリス、ロシアにせよ、いずれも貿易とかキリスト教の布教とか、日本の文明化による経済上の利益を選んだり、あるいは領土的野心をいだし、さらに日本の植民地化をねらって、日本に接近し開国を迫ったのであった。ところがドイツだけはKaempfer, Sieboldという二人の医師、自然科学者によって、日独両民族の心の結びつきを作ったのである。

明治時代の幕あけとともに日本は近代化に向けて力強い前進を遂げて行くが、ドイツの学術・文化の中で日本に最も大きな影響を与えたのは医学であった。東京帝国大学にはドイツから数多くの医学者が迎えられたが、その中でもProf. Dr. Erw in Bälzは長く日本に滞在し、数多くの医学者を育成し、日本医学の基礎を作って、日本近代医学の父と謳われていることは皆様よくご存じの通りです。この近代日本の大恩人Bälz博士のUrenkel(曾孫)さんが、現在東京で活躍しておられますが、あとで時間があいたらお話ししてみましよう。

医学以外の分野でも明治日本はドイツに学ぶところが非常に多く、例えば理工学の領域では、明治元年(1868年)来日したHannover出身のDr. Gottfried Wagenerという技術家はその後心から日本を愛するようになり、ヨーロッパの科学・技術の紹介に努めると同時に、日本の芸術を海外に紹介し、また京都帝国大学と東京帝国大学で化学、物理学の講義もなさいましたが、この先生が東京に創設したIngenieur-Schule(技術者養成所)が後に東京工業大学にまで発展し、数多くの有為な人材を生んだ事は有名な話です。

もうひとりRudolf Lehmannという技術家は、大阪・京都間の河川交通のため最初の汽船を作り、製紙工場も設立したが、これが後に王子製紙という大会社に発展しました。「このお方は非常に多芸多才の人で、日本最初の和独辞典を作り、わが国の鉱山事業に多大の貢献をしたCurt Nettoさんと共著で「日本のユーモア」(Japanischer Humor)という本まで著わしております。」

明治時代の中期、足尾銅山を経営していた古河市兵衛がドイツのSiemens社と技術提携して鉱山の電化を断行したが、現在の富士電機という大会社はこの古河(Furukawa)のFuとSiemensのSiを合わせてFusiとしたもので、偶々日本で最も高く美しい山である「富士」と同じ音になるので、日本語では「富士」と書いていますが、命名の由来は今申した通りです。

大阪にヤンマー・ディーゼル(YANMAR Diesel)という会社があります。この会社はドイツのDiesel博士の技術を応用して小型エンジンを発明し、そのお陰で日本有数の大会社になったものですが、この会社の名前について面白い話がございます。この会社がまだ小さかった頃エンジン、(モーター Motor)を作る「トンボ」(Libelle)という会社があったそうです。この「トンボ」に追いつこう、いや追い抜いてやろうというわけで優秀なMotorを作り上げました。そして「トンボ」を抜いたのだからというわけで、皆様ご存じの大型のクレイなトンボ、「ヤンマ」という名にしようと、ローマ字で書いてみると、どうもドイツ語のJammerになってしまう。(この訳はご存じのとおり「歎き、悲しみ、悲歎」という意味の男性名詞です。)そこでローマ字でYANMARとし、DieselをつけてYANMAR-Dieselとしたのだそうです。

その他自然科学の全分野で日本は数え切れないほどドイツ人学者、技術家から教えを受けました。ドイツは正に日本のMeisterであり、日本は恩師ドイツの従弟(Lehrling)であったと申せましよう。やがてこの勤勉な従弟はMeisterのきびしい指導の下に職人(Geselle)となり、ついにはMeisterになった者もおります。ドイツの若者の中にSonny, Honda SEIKOの名を知っている者が多いように、日本の若者で、Röntgen, Diesel, Goethe, Heine, Hesseの名を知らない人はほとんどおりません。

精神科学の面でも、とりわけ哲学・文学・音楽の分野でも日本は、数え切れないほど多くのドイツ人から教えを受けましたが、現在でも受けております。総じて在日ドイツ人の方々、学者、教育者は言うまでもなく、それ以外の職業の方々も学問的研究に熱心な人が多く、すぐれた著述を行ない、日本文化の研究・紹介に努めており、他の外国人とはこの点で大きな違いを見せており、Kaempfer, Siebold, BälzのFaust的学問研究の伝統は、現在も受けつがれていると申せましよう。

国家間の文化交流は単なる知識の導入や技術の交換だけでは成り立ちません。真の文化交流に絶対欠かせないものは、両国民の心の結びつきです。私達はここで日本とドイツとの出会いが、学問を通して結びつきであったことを、もう一度想起したい。私達日本人はまだ多くの点でドイツに学ぶべきことがありますが、学問を通じての心の結びつきこそ、両国文化交流の基本原理でなければならないと思います。(筆者は帝京大学教授・東京大学名誉教授。) — 世間虚仮 唯学是真 —

## 〈行事〉

◇7月

前橋ロータリークラブに二人の来客あり、7月27日ぐんま日独協会では日本銀行前橋支店客室にて交歓した。高校生とは思えないしっかりした学生であった。



↑ Katrin Heyder  
前 Graf-Schwerin-Str.6a  
列 52066 Aachen  
左 (Deutschland)

↑ Tina Heubeck  
前 Lindentallee 53  
列 50968 Kohn  
中 (Deutschland)

◇9月

バイエルン独日協会(DIETER GANZENMULLER 事務局長)と栃木日独協会(橋本孝会長)と辻理教授(ミュンヘン大学)の依頼をうけて、ミュンヘンとエーランゲン大学生7人を少林山達磨寺に紹介した。(9/16~9/19)

朝5:30座禅にはじまる厳しい生活にはじめは辟易したが、すっかり行儀作法まで身につけ、洗心亭にブルーノ・タウトの跡を偲び、又高寺理事の案内で共愛学園女子短大6人と交歓し、群馬でも日独大学生の交流が始まった。



ドイツ大学生と平形会長 廣瀬正史(住職)少林山達磨寺にて

### ミュンヘン大学日本学科(ヤパノロギ-)の学生たち

高寺宏延

「先生、大学でいちばんたいせつなことは何だと考えてますか。お互いに簡単な自己紹介がすんで個々に話が始めたとき、アレキサンダー君という26歳になる学生(来た学生の中で最年長)から突然発せられた質問だった。予期しない問いに正直一瞬たじろいだ。「そうですね、人格形成でしようか」「ケイセイ」「そう、ジッヒビルデン」「ああ、そうですねか」。

彼が聞いたかったことにちゃんと答えていたのだろうか。はなはだ心もとない。ドイツの大学では主専攻と副専攻、2つの学科を専攻しなければならない。彼の副専攻はアメリカ学であり日本語の知識は相当なものだった。「以心伝心」などという言葉まで知っていた。ミュンヘン大では、週に8時間日本語の授業があるという。それでも少ないということで、今年から週11時間にふえたという。大学3年になる学生たちが主であったが彼女たちはそれまでに残った3分の1の学生たちだった。あとの3分の2は落伍していったということになる。事情はニューゼーランドのオークランド大の日本語科でも同じだった。

### ベルリン・ピアノ・トリオ群馬公演

1994年3月26日(土)

高崎芸術大学・水琴奏楽堂

この度、ベルリン・ピアノ・トリオ日本公演につき、ドイツ大使館より御後援をいただきました。高、申込みの方はぐんま日独協会まで。

### 祝小林祐邦会員 ベルツ・メダル受賞

Sehr geehrter, lieber Herr Kobayashi,  
es ist mir eine Ehre und Freude, Ihnen heute anlässlich des Festaktes zum 30jährigen Bestehen der Städtepartnerschaft zwischen Kusatsu und Bietigheim-Bissingen die

Erwin von Bälz-Plakette

überreichen zu dürfen, eine Auszeichnung, mit der die Stadt Bietigheim-Bissingen Ihre besonderen Verdienste um unsere Stadt, insbesondere aber auch für die Städtepartnerschaft zwischen Kusatsu und Bietigheim-Bissingen würdigt.

(中略)

Sie, sehr verehrter Herr Sukekuni Kobayashi, haben sich persönlich und insbesondere auch durch Ihre Arbeit im Gemeinderat der Stadt Kusatsu herausragende und bleibende Verdienste um unsere Stadt erworben und so darf ich Ihnen meine Freude zum Ausdruck bringen, daB der Gemeinderat der Stadt Bietigheim-Bissingen beschlossen hat, Ihnen diese hohe Auszeichnung zu verleihen, die ich Ihnen heute aushändigen darf.

Bietigheim-Bissingen, 26. Juni 1993

Manfred List  
Oberbürgermeister

草津-ビーテッヒハイム・ビッシンゲン姉妹都市締結30周年式典に際し、大功労者として

Erwin von Bälz-Plakette(ベルツ・メダル)を贈呈します。

1993年6月26日

ビーテッヒハイム・ビッシンゲン市  
市長 マンフレッド・リスト

井上房一郎翁の御冥福を祈ります。

高崎市少林山達磨寺の洗心亭にブルーノ・タウトを招いた日独文化交流の恩人。1993.7.27大往生。享年95才。

訃報

会員 桑原辰之助氏の御冥福を祈ります。

### 編集後記

●9月天皇・皇后両陛下ドイツ御訪問のニュースの中に、ハース大使や、シュルテ参事官の顔が見えかくれする。群馬日独の会員にはそれが馴染みの顔として、話題になるほどドイツが近くなりました。●表彰者の良い顔々、本会はなほ多士済々。●クライナー博士の含蓄の深さに敬意を表し、本号の為に原稿を下された常木教授に感謝を捧げます。次号は会員特集号にしたいと存じます。投稿(400字詰程度)歓迎。